

特集

あらゆる領域に挑む総合大学の研究

ひろがっていく 金沢大学「知のチカラ」



金沢大学広報誌「アカンサス」No.7 2006 WINTER

発行日 2006年12月11日
発行 金沢大学広報課 〒920-1192 金沢市角間町 TEL:076)264-5024 koho@ad.kanazawa-u.ac.jp
広報誌「アカンサス」の配布を希望される回覧会には有償で増刷いたしますので、所要数をご連絡ください。

お気軽にご参加ください 【イベントカレンダー】

◎サテライト・プラザのミニ講演 ★サークルのイベント

12月 December

- 1 → タウンミーティングin羽咋 (コスモアイル羽咋)
- 4 → 金沢大学国際交流後援会 (KKRホテル金沢)
→ 学長主催金沢大学留学生懇談会 (KKRホテル金沢)
- 5 → 学部学生と学長との懇談会
- 9 → 琴尺八部 邦楽演奏会 (石川県文教会館)★
→ 高校生対象の放射線教室
- 16 → モダン・ジャズ・ソサエティ 定期演奏会 (アートシアターいしかわ)★
→ ミニ講演「731部隊と金沢」◎
→ 教育学部音楽科 定期演奏会 (石川県文教会館)
- 17 → 竹糸会 邦楽演奏会 (石川県文教会館)★
- 19 → 21世紀COEフォーラム
「ナホトカ号重油流出事故から10年、
私たちは何を学んだか?」
- 23 → らくだの会[演劇部]金大祭公演「赤鬼」
- 24 → (金沢市立泉野図書館)★
- 24 → 吹奏楽団 定期演奏会 (金沢市観光会館)★
- 28 → 軽音部Y.F.A お城のコンサート'06 (金沢AZホール)★

1月 January

- 13 → フィルハーモニー管弦楽団 定期演奏会 (石川県立音楽堂)★
- 20 → 合唱団 定期演奏会 (金沢市文化ホール)★
→ ミニ講演「子ども・若者の道徳-いま何が問題か-」◎
- 20 → 大学入試センター試験
- 25 → 金沢がん生物学・分子標的がん医療研究開発センター
合同シンポジウム2007 (医学部記念館)

2月 February

- 2
- 3 → 白峰雪だるままつりin角間の里
- 4
- 17 → ミニ講演
「動物の心、人間の心:動物の学習から人間行動を考える」◎
公開講座
「美術へのいざないXIV-塑造による頭像の制作」
[3月の講座日程] 3/3, 4, 11, 17, 18, 21
- 25 → 入学試験-前期日程
- 26

3月 March

- 6 → 附属高等学校卒業式
- 7 → 附属幼稚園卒園式
- 8 → 合格発表-前期日程
→ 附属看護学校卒業式
- 9 → 附属小学校卒業式
- 9 → 美術部 卒展 (金沢市民芸術村)★
- 15
- 10 → 宝生会 能楽発表会 (石川県立能楽堂)★
- 12 → 入学試験-後期日程
- 13 → 附属中学校卒業式
- 17 → ミニ講演
「大豆イソフラボンの有効性と安全性を考える」◎
- 18 → 法情報センター 模擬裁判 (サテライト・プラザ)
- 20 → 合格発表-後期日程
- 22 → 学位記・修了証書授与式
(第1部 大学院・専攻科, 第2部 学部・別科:金沢市観光会館)

4月 April

- 7 → 入学宣誓式
(学部:金沢市観光会館, 大学院:医学部十全講堂)

角間キャンパスと
学生ライフエリアを結ぶ
100円バス
利用にご協力を!

4/1の運行スタートから地域の方
や金大生に利用されている、通称
「100円バス」。来年も100円バス
を利用するには、みなさんのあたた
かいご協力が必要です。

どんどん乗りましょう
目標利用者数の突破を目指してい
ます。採算ラインが下がった時には
もとの運賃(170~220円)に戻って
まいります。

ICaを使いましょう
利用者数はICaでカウントさ
れています。ICaを利用すると
10%のプレミアが付いてとって
もお得です。

運賃100円
エリア

【100円バスについての詳しい情報】
http://www.kanazawa-u.ac.jp/j/info/access/100YenBus/trigger_k.html

広報誌「アカンサス」は金沢大学ホームページからご覧いただけます。<http://www.kanazawa-u.ac.jp/ac/>



〔編集後記〕
今号は、研究特集。と題し、
9つの研究を紹介させていただ
きました。あるときは人体、ある
ときは世界、あるときは宇宙、
あらゆる分野で未知の世界へ挑
む先生方のお話はとても興味深
く、驚きの連続でした。
金沢大学に在籍する教育研
究者は11月現在で1138人。
今後も続々とトッププレイ
ヤーの最新研究を紹介してい
きます。お楽しみに!!

〔表紙写真〕
アカンサスインターフェイスと
角間キャンパス北地区
広大な角間キャンパス内には
3つの地区を結ぶ2つの橋が
架かっています。今号のモデル
はチャリダー部のみなさん。
本誌P.11にも登場しています。

〔Acanthus 116c〕
古代ギリシア・ローマに由来す
る植物で、和名を葉薊(ハアザ
ミ)という。金沢大学校章のモ
チーフになっていることから、
キャンパス内施設に名称が用
いられるなど、長年にわたり学
生や教職員に親しまれている。

データで見る「金沢大学の研究」

平成17年度 外国企業との共同研究実績 全国1位

平成17年度外国企業との共同研究実績(金額順)において、金沢大学が全国1位となりました。また、平成17年度外国特許等によるライセンス等収入では6位となっています。

○平成17年度外国企業との共同研究実績(金額順) / 文部科学省研究振興局「大学的財産本部成果還元策～国際的な産学連携の推進に向けて～」より

大学名	件数	金額(千円)
1 金沢大	2	71,600
2 東京大	7	52,798
3 京都大	3	17,075
4 九州工業大	1	15,673

学術論文被引用数の国内ランキング 14位

薬学・毒性学分野 国内8位

臨床医学分野 国内9位

学術論文被引用数とは、論文が研究を行う際にどれくらい参考にされたかということを示すものです。多く引用されている論文は、世界の技術発展に対して大きな影響を与えたといえます。なお、世界ランキングでは352位です。

○学術論文被引用数ランキング / (社)国立大学協会「21世紀日本と国立大学の役割」より

国内	国外	大学名	論文数	被引用数
1	14	東京大	61,940	677,440
2	31	京都大	44,553	463,987
3	35	大阪大	39,129	422,583
4	76	東北大	35,635	274,003
5	97	名古屋大	25,116	228,760
6	113	九州大	25,690	204,761
7	148	北海道大	24,052	175,062
8	173	東京工業大	21,479	154,856
9	221	筑波大	15,549	124,594
10	264	広島大	14,482	105,186
11	307	千葉大	10,501	89,080
12	310	慶應義塾大	10,848	87,835
13	329	神戸大	9,121	82,569
14	352	金沢大	8,255	76,515

平成17年度 特許出願 54件

特許実施許諾契約 3件締結

特許実施料収入 全国12位

金沢大学では法人化後、発明はすべて機関所属とし、発明者から依頼を受けて、将来、特許として保有する価値があるものは厳選のうえ特許出願を申請しています。

平成18年度 科学研究費補助金採択件数ランキング(新規採択分) 16位

新規+継続の採択金額は13億5,413万円。科学研究費補助金は、日本の学術振興のために優れた研究を支援することを目的に設けられた研究助成費です。

○平成18年度科学研究費補助金ランキング(新規採択分) / 文部科学省研究振興局学術研究助成課

大学名	採択件数
1 東京大	1,089
2 京都大	983
3 東北大	778
4 大阪大	762
5 九州大	609
6 北海道大	579
7 名古屋大	475
8 筑波大	366
9 広島大	322
10 東京工業大	316
11 神戸大	271
12 理化学研	254
13 慶應義塾大	253
14 岡山大	244
15 千葉大	236
16 金沢大	229

金沢大学の研究情報および学術情報へのアクセス

>> 金沢大学ホームページ 研究・産学連携
<http://www.kanazawa-u.ac.jp/j/shu/06.html>

>> 金沢大学学術情報リポジトリKURA
<http://dSPACE.lib.kanazawa-u.ac.jp:8080/dSPACE/>



中央図書館

特集 あらゆる領域に挑む
総合大学の研究

「知のチカラ」 ひろがっていく

百四十余年にわたり連続と受け継がれてきた金沢大学の研鑽の精神。

今号は本学をホームベースに世界で活躍する研究者たちが登場。総合大学が有する多彩なテーマと、未知へ挑むトッププレイヤーの最新研究を紹介します。

CONTENTS 細胞から人体へ



P4 安藤敏夫教授
世界最速の原子間力顕微鏡で、たんばく質の動きを見る



P5 太田哲生教授
「物言わぬ臓器」に挑む
世界が注目する最新のがん治療



P5 早川和一教授
大気中の微粒子に存在する「発がん物質」を追う



P6 橋本和幸教授
田邊 浩助手
金沢市と連携して、コミュニティに関する調査を実施



P6 中川一史助教授
全国の小中高の先生たちとDip Projectを展開中!



P7 野村真理教授
芥納才一教授
地域を越えたプロジェクトと東アジアの共同研究

太古から未来へ



P8 柏谷健二教授
過去の環境変動を知り、近未来を予測する「温故知新の科学」



P9 村上敏夫教授
星空はタイムマシンガンマ線バーストで、誰も見たことのない宇宙が見たい



P9 泉田 啓助教授
宇宙への夢と憧れ 学生とともに 未来の宇宙システムを研究

金沢大学は、長崎大学、東京大学に次いで、日本で3番目に古い起源を持つ総合大学です。地理的には、日本海を中心、言ってみれば日本を中心位置し、医薬系・理工系・文系が密な連携をとって、画期的な研究活動を展開しています。

例えば21世紀COEプログラム(※)「環日本海地域の環境計測と長期・短期変動予測」これは、日本海を中心という金沢大学の地理的特徴を十分に生かしています。同じくCOEの「発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成」は、脳神経細胞の研究を、障害を持った子どもの教育へフィードバックするという、文系理系が手を取り合った、総合大学にしかできない研究として大きな期待が寄せられています。

他にも、日本学士院賞を受賞した野村真理教授の「ウィーンのユダヤ人一九世紀末からホロコースト前後まで」新しい研究分野を開くことが期待される安藤敏夫教授の「高速原子間力顕微鏡」など、金沢大学では数多くの「トッププレイヤー」が育ち、高いレベルの研究活動を行っています。

私 も研究者として金沢大学で宇宙やロケット、人工衛星に携わってききましたが、その間ずっと「自分の長所をPRすること」「人と組んで研究をすること」を心がけてきました。長所をPRするためには、自分を知り、自分しかできない技術を持つことが求められます。それが認められれば、さまざまな研究プロジェクトに参加することができるようになります。そうすればやがて、自分でプロジェクトを動かせるようになり、結果、金沢大学の研究活動に貢献することにももちろん、金沢を中心に研究活動を展開することで、地域の活性化にも貢献することになります。

研究担当理事となった私の使命は、金沢大学の研究者が他の研究者と連携しやすい環境を整えることです。そして、新たな学術分野を開拓し、技術移転や産業の創出等を図ること。若手研究者の育成に努め、常に新しさに挑戦し個性を引き出す体制を維持すること。それらを通して多くの「トッププレイヤー」を育てていきたいと考えています。

※21世紀COEプログラム
このプログラムは、世界の最高レベルの研究拠点を形成することを目的に、特に将来性豊かな研究者に研究費を補助するものです。

金沢大学 研究・国際担当理事
長野 勇
NAGANO Isamu

細胞から 人体へ

世界最速の原子間力顕微鏡で、

たんぱく質の「動き」を見る

「触る」顕微鏡の威力

世界で初めて成功

「原子間力顕微鏡」とはどんなものなのか、どれほどすごいものなのだろうか？ 一般に「顕微鏡」といえば、「光学顕微鏡」を意味する。光学顕微鏡では見えない微小なものなら電子顕微鏡を使用する。これらの顕微鏡は例えるなら人間の「見る」能力を増幅するものである。それに対し、原子間力顕微鏡は「触る」能力を増幅するものとなる。針の先で試料をなぞることによって形状を知り、それを画像に変換することで人間の目に見えるものとする。「見る」のではなく、「触る」ことによって試料の詳細な立体的形状も知ることができるようになる。また、電子顕微鏡では試料を真空中に置く必要があるが、原子間力顕微鏡ではその必要がなく、大気中や液中でも観測することができるのだ。

一般の原子間力顕微鏡では試料を1回観察するのに最低でも1分かかかるため、静止画としてしか見ることができない。また、試料をしつかりと固定する必要があるため、柔らかいたんぱく質の様子を見ることは不可能だ。いわば、今までの原子間力顕微鏡は静止画しか写すことのできないスチルカメラなのだ。先生は世界で初めて、原子間力顕微鏡をビデオカメラにすることに成功した。試料を固定せず、撮影も秒以下の速度で行うことができるようにしたのである。

例えば、今までは想像することができなかつた、たんぱく質の「動き」を動画で見ることができるようになったのだ。このことがどれだけの科学の発展に寄与することになるかは説明するまでもないだろう。

新たな研究分野の開拓

そもそも高速原子間力顕微鏡を開発したのは先生自身の研究テーマである「モーターたんぱく質」の研究を進めるためである。いわば、先生の研究は、ようやくスタートラインに立ったという状態だ。加えて、生まれたばかりの技術であるため、まだ観測データが十分に集まっていない。さまざまな研究機関にこの装置を使ってもらうことによって、ノーベル賞級の発見や新たな研究分野が開拓されるかも知れないのだ。

先生の研究も高速原子間力顕微鏡も、これからさらに世の中を驚かせてくれるはずである。



自然科学研究科
安藤 敏夫 教授
Professor ANDO Toshio

研究に恋して 安藤教授の素顔

早稲田大学博士課程、カリフォルニア大学サンフランシスコ校助手を経て金沢大学へ。ナノバイオロジー、生物物理学が専門。モーターたんぱく質の研究をしており、その動きを独自に開発した高速原子間力顕微鏡で見る。趣味は料理。

サンフランシスコ校時代 >>
6年半在籍。研究室の同僚たちとビールを飲みながら、研究のさまざまな問題について議論した。ここでの経験が今の研究に大いに生かされている。



>> 研究室ホームページ <http://www.s.kanazawa-u.ac.jp/phys/biophys/>



膵臓がんの手術

「物言わぬ臓器」に挑む 世界が目にする 最新のがん治療

国内唯一の医療技術

がんの中で最も悪性で治療が難しいとされている膵臓がん。膵臓は「物言わぬ臓器」と呼ばれるほど自覚症状がなく、抗がん剤も効きにくい。すぐ脇にある動脈・静脈の血管付近にまでがんは広がるが、ここは昔からふれてはならない領域。ゆえに手術でがんを切除してもがん細胞が残り、再発することが多いのだ。先生は金沢大学医学部附属病院において、移植の専門チームとも協力し、この「ふれてはならない領域」に挑み、血管切除・移植による膵臓がん根治を世界で初めて成功させた。

新しい医療体制で難病に挑む

目指すのは外科手術による治療だけではない。膵臓がんは一般に血管の少ない腫瘍と考えられてきた。先生は手術で切除した膵臓がん標本を直接「血管造影」し、がん組織内で作られた物質（アンギオテンシン）が既存の血管を収縮させ、血流が低下した状態にあることを世界で初めて発見した。血流が少ないから抗がん剤が届かない。ここからどのようにすれば膵臓がんは抗がん剤が効くようになるか、今、先生のチームが中心となり研究が進められている。

附属病院では臓器別診療が始まり、さらに迅速で柔軟な治療が可能となった。今後も世界の医療に大きく貢献していくことだろう。

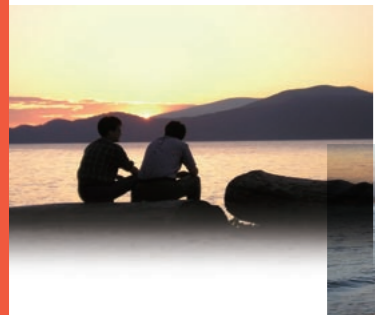
先生と医療チームスタッフ



医学系研究科
太田 哲生 教授
Professor OHTA Tetsuo

研究に恋して 太田教授の素顔

金沢大学医学部を卒業。がん制御学外科に所属し、膵臓がんを研究課題としている。「教科書に書かれた医学は過去の医学であり、目前に悩む患者の中に明日の医学の教科書の中身がある」(東京大学・沖中重雄教授の言葉)が座右の銘。



<< 沈む夕日を見ながら

2004年の春、カナダのバンクーバーにあるブリティッシュコロンビア大学(UBC)生化学教室へ短期留学。この写真は、教室のポストであり、また友人でもある沼田先生(金沢大学医学部出身)といっしょに撮ったもの。アカディアビーチで沈む夕日を見ながら、がん細胞の生物学的悪性度の解明について熱く語り合った。

>> 研究室ホームページ <http://web.kanazawa-u.ac.jp/~med26/>



研究に恋して

早川教授の素顔

東京大学博士課程を経て金沢大学へ。環境系薬学、環境影響評価(含放射生物学)が専門。21世紀COEプログラム「環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測」の拠点リーダーを務める。

学生コメント「先生ってこんな人」

普段はユーモアいっぱい、いつもみんなを和ませてくださいます。研究に対してはとても厳しいですが、本気で学生の気持ちになって考えてくださるやさしい先生です。舞台上に立たれた時はとてもご立派。尊敬できる先生です。(薬学部・秋山さん)



自然科学研究科
早川 和一 教授
Professor HAYAKAWA Kazuichi

研究では妥協を許さず、学生を厳しく指導してくださいます。「先生は本当に研究が好きなのだ」と感じさせられます。趣味はテニスやスキーなど活動的。明るくて、若々しくて、気さく。親しみやすい先生です。(自然科学研究科博士課程・大野さん)



検証実験

北京「中国科学院生態環境研究中心」の屋上に設置され、1,000m³の大気を吸引捕集したフィルター

>> 研究室ホームページ <http://www.p.kanazawa-u.ac.jp/~eisel/>

大気中の微粒子には何が?

大気は約8割の窒素と約2割の酸素、少量の二酸化炭素などの気体からなるとされるが、現実には気体以外にさまざまな微粒子が含まれる。その中には発がん性物質や環境ホルモンが存在する。

研究は大気中の微粒子をフィルターで採取するところから始まる。有機溶媒を使ってフィルターから微粒子の成分を取り出し、蛍光や化学発光検出器を備えた高速液体クロマトグラフを使い、大気中に含まれる有害物質の種類や量を知ることができ

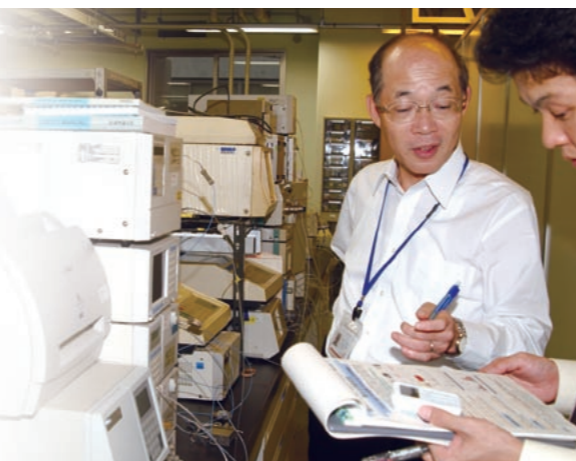
大気中の微粒子に存在する

「発がん物質」を追う

環日本海の中で

これによると日本や韓国では石油燃料による二トロ多環芳香族炭化水素(NPAH)が多く、中国では石炭燃料による多環芳香族炭化水素(PAH)が多いという。日本はディーゼル車による排気ガスの影響、中国は工場排気や暖房による排気の影響が大きいととらえられる。

先生は次段階として、「中国で発生した微粒子が日本にどの程度届くのか」という研究に着手した。中国から届く粒子は黄砂だけではない。冬季に能登半島の先端でPAH濃度が上昇するのは、中国の石炭による暖房が影響しているという。それらがどのように人体に取り込まれ、健康に影響を与えていくのか。今後注目したい。



自然科学棟にある実験室
さまざまな分析器が並ぶ



中国浙江省杭州市郊外の農村。水田が広がる中に3階建ての白い農民の家が建ち並び、弁納先生は近代中国農村経済史研究のために農村によく出かける。



中国大連市中山広場の周辺。高層ビルが林立している。

野村教授

専門は社会思想史。一橋大学助手を経て、金沢大学へ。2003年に著書『ウィーンのユダヤ人一九世紀末からホロコースト前夜まで』で日本学士院賞を受賞。趣味はオペレッタを鑑賞すること。

弁納教授

専門は東洋史。東京都立大学人文科学研究科博士課程卒業。中国農村経済の近代化に関する研究を行う。趣味は中国に行くこと。他には特にないため、「今から妻に老後を心配されている」とのこと。



<< 留学生時代
中国に留学していた頃の天安門前広場。写真の「民主の女神像」は現在撤去されている。1989年撮影。



共著「地域統合と人的移動
ヨーロッパと東アジアの
歴史・現状・展望」

経済学部
弁納 才一 教授
Professor BENNOU Saitoichi



経済学部
野村 真理 教授
Professor NOMURA Mari



地域を越えたプロジェクト
ヨーロッパと東アジアの共同研究
弱点を克服して
金沢大学の弱点——それは、研究のメニューは東京大や京都大にもひけをとらないほど多様だが、一つひとつの規模が小さく、学内で共同研究を立ち上げるのが難しいということだ。
2004年度の国立大学法人化を機に自らを「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」と位置づける金沢大学としては、何とか、そのデメリットを克服できないか。そこで、先生たちは、学内からヨーロッパと東アジアの歴史と経済の研究者を集め、この2地域の地域統合と、それに伴う人の移

動が引き起こす問題に着目する共同研究を立ち上げた。そうすることで研究の幅が広がり、単一の地域では不可能だったテーマについての共同研究が可能になったのだ。さらに、これまでの地域研究ではほとんど前例のない、ある地域の問題を、他地域を参考にして考える」という学術的な特徴も生まれている。
東アジア共同体に向けて
しかし、2年間で比較的バランスのよい研究成果を出せたヨーロッパに対して、東アジアは過去の問題しか取り上げられず、東ア

ジア共同体の必然性を歴史的に検証する地道な研究が必要であるという結論に至った。「東アジアに住む日本人は、過去を現在の問題としてとらえ、どういった歴史認識を持つのかを問われているのです（弁納先生）。2006年からは、ヨーロッパの経験を踏まえて、東アジア共同体が形成されるために基礎となる歴史的事実と歴史認識を再検討する研究が新たに立ち上げられている。

界に目を向け、視野を広く持つことを期待する。弁納先生自身は、学生時代に3泊4日をかけ、日本海を鑑真号という船で渡り、中国まで渡航した経験をもつ。「国際化は英語ができることではなく、実際に違う国の人と話すこと。積極的に留学生と話してみたい」。また、野村先生は、学生たちが真摯に課題に取り組む姿を評価しつつも、「最近ではキャリア形成として資格試験の勉強に邁進する学生が多いけれど、日本の外にも目を向け、社会や政治といった国際関係にも関心を持って欲しい」と若い世代への要望を語った。

ローカルからグローバルへ

金沢市と連携して、コミュニティに関する調査を実施

官学協働のフィールド調査
社会学研究室では、毎年、石川県内をフィールドにした「社会調査実習」を実施。3年生と大学院生が参加するこの実習に、今年も金沢市が加わった。これは昨年、橋本先生が市の「コミュニティ空間の保存と形成に関する検討懇話会」の座長となり、コミュニティの実態を把握し、地域活動の課題や改善点などを知るために調査研究の必要性を報告したことがきっかけである。

研究成果で市に貢献したい
調査対象は町会長1388人と、ランダムに選ばれた市民1500人。すでに1000人以上の町会長から回答があり、通常の調査よりも格段高い回答率に、「町会に対する調査は40年ぶり。最近では町会がマンネリ化する傾向があり、何かしなくてはいけないという意識があったのでは」と橋本先生は考えている。「現在は日常生活における問題が複雑で、個々では対処できなくなっているが、少子高齢化、生活スタイルの変化や価値観の多様化などによってコミュニティは希薄化している。リスクに対応するためには集団や組織を形成しないとけない」。今回の分析と研究成果がこうした問題に貢献できるのではと、メンバーたちは意欲的だ。



研究室のミーティング風景

全国の小中高の先生たちとD-projectを展開中!



コクヨS&Tと子どもたちによるワークショップ



教育学部附属
教育実践総合センター
中川 一史 助教授
Associate Professor
NAKAGAWA Hitoshi

研究に恋して 中川助教授の素顔
小学校教諭を経て、金沢大学へ。研究テーマは、情報教育に関する学習環境など。クワガタ捕り、温泉めぐり、車と、趣味は多彩。



<< クワガタ
趣味は息子と近くの山に入っているクワガタ捕り。しかし、今年には受験生のため、なかなかつぎあってもえなかった。



文学部
橋本 和幸 教授
Professor
HASHIMOTO Kazuyuki



人間社会環境研究科
田邊 浩 助手
Assistant
TANABE Hiroshi

研究に恋して 教授たちの素顔
橋本教授
大阪大学博士課程、和歌山大学助教授を経て、金沢大学へ。コミュニティにおける地域・家族や高齢化などの研究を行う。著書は「高齢化社会と生活選択」(共編・2002年)他多数。
田邊助手
中央大学博士課程を経て、金沢大学へ。激しく変化し続ける現代社会の原理的な仕組みについて研究している。趣味は映画館で映画を観ること。金沢の映画上映環境に関心を持っている。

学生コメント
「先生ってこんな人」
講義では優しい表情で穏やかにお話しされる姿が印象的です。お酒が大好きで、学生を飲み連れに連れて行ってくれる優しい先生です。(文学部・林さん)
「先生ってこんな人」
気難しそうに見えて、学生とおしゃべりが大好きな先生です。流行に詳しく、いろんな情報を学生に教えてください。(文学部・林さん)



メンバーの手によって、一つひとつ集計・分析がされていく

>> 社会学研究室ホームページ
<http://web.kanazawa-u.ac.jp/~socio/home.htm>

今年9月から、金沢大学教育学部附属小学校6年1組では、コクヨS&Tで実際に行われている商品企画のプロセスを体験する授業が行われている。これを推進しているのが、中川先生が会長を務める「D-project」(デジタル表現研究会)だ。子どもたちは身近な文具を題材にデザインや機能を検討し、市場調査を行い、新商品の企画を考え、成果をプレゼンテーションする。その中で、働くことのやりがいや意義とともに、発想力やコミュニケーション力など社会で求められる力が育まれていくという。

D-projectのキーワードは「デジタル」と「デザイン」。「学校にICTが入ってきてから、コンピュータやソフトを使っても授業をイメージできない先生も多かった。効果を考え、デジタルを使った授業をデザインして」と立ち上げました。2002年設立から会員はすでに500人。メルマガリストで情報交換を行い、ワークショップや年2回の研究会も実施。企業との産学共同プロジェクトが常時行われている。現在はさらに進化した「新生D-project」を考案中である。

>> D-project ホームページ <http://www.d-project.jp/>

太古から 未来へ

過去の環境変動を知り、 近未来を予測する 「温故知新の科学」

気候のメカニズム

「実はチベット高原が世界の気候をコントロールしているんです」。ユーラシア大陸中央部に位置する世界最大・最高度の高原。そこがいったいどのように地球環境に影響を与えているのだろうか？

地球環境の変化は日照量で決まる。地球上で最も高度の高いチベット高原は、太陽に最も近い位置にある。加えてそれは、高原という名の巨大な大地の塊で、海のように1年を通して常に一定の熱を吸収しているわけではない。高原が雪で覆われれば光を反射する。そうでない場合には熱をよく吸収する。そして、高原の地面が暖まると周囲の空気を熱して上昇気流が生まれる。これが季節風の元となり、世界各地からチベット高原に向けて空気が流れ込むことになるのだ。

小さな堆積物から

先生はこの巨大なメカニズムを利用し、地球の環境変動の歴史を解明しようとしている。方法は、チベット高原上やそれを取り巻くユーラシア東部にある湖、その湖底に沈む堆積物の分析だ。「湖底の堆積物は、地球のタイムレコードです」。季節風や偏西風の影響で、湖には世界中の風が運んできたものが沈んでいる。花粉や黄砂、雨が削った山の土砂。そんなごく小さなサンプルを相手に、地球全土の環境データを引き出している。

600メートルで1千万年

先生はすでにロシアのバイカル湖で600メートルのボーリングを達成。5年がかりで1千万年分の堆積物の収集を完了した。この解析と並行して、さらに高い場所に位置するモンゴル高原のフブスグ湖調査を予定している。「高度が高いほうが、感度がよいデータが取れるんですよ。研究者の目は輝くが、実際の研究環境は過酷を極めていて。高度5000メートル近くのチベット高原の調査では、高山病にこそかからなかったが、10キロも体重が落ちてしまっただけという。



自然計測応用研究センター
柏谷 健二教授
Professor KASHIWAYA Kenji

未来を知りたい

それでもさらに感度がよい緻密なデータを求める理由はただひとつ。5000年や1万年先といった現実味に乏しい未来ではなく、今を生きる我々にとって意味のある50年先や100年先の環境予測をしたいからだ。それは土壌浸食など、地形災害の予測から研究をスタートさせた先生ならではの信念といえる。

実際に調査をしているときは、その激務ゆえに二度と行くまいと思う。「でもねえ、あの湖の青さを見れば、疲れなんか吹き飛びますよ」。太古の環境変動を紐解き、未来を予測する研究者は、近くモンゴル・フブスグ湖へと旅立つ。

青い湖面が美しいバイカル湖。この色は、高地の抜けるような青空を反射したものだ。



星空はタイムマシン

ガンマ線バーストで、誰も見たことのない宇宙が見たい

過去に星を出発した光が、地球に届く

私たちが見ている星の「光」は、はるか昔にその星を出発し、何年も、何百年も、何万年もかけて地球にたどり着いたもの。星空を見上げることは、宇宙の過去の姿、あるいは宇宙がもつと若かった頃の姿を見ることが出来るのだ。

望遠鏡を使って、遠い星を見るということは、さらなる宇宙の若い姿を見ることが出来る。しかし、高性能の望遠鏡(※)を使っても、捉えられる光は100億光年——100億年前の宇宙の姿——までだ。宇宙の始まりが知りたい。 ※宇宙空間に浮かんだハッブル宇宙望遠鏡

「宇宙の歴史年表」を作る

村上先生は生まれた頃の宇宙を知ろうと、太陽よりはるかに大きな星が寿命を終え、ブラックホールになる際に発生するエネルギー



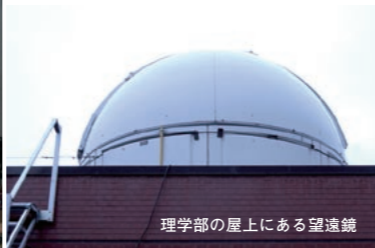
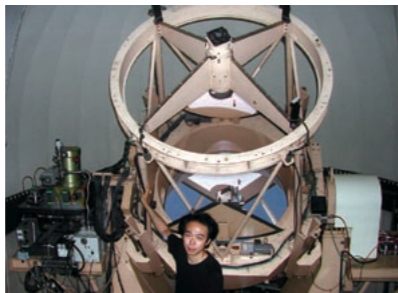
自然科学研究科
村上 敏夫教授
Professor MURAKAMI Toshio

「ガンマ線バースト」を追っている。この現象は、100億光年の彼方から地球まで届き、当時の宇宙の姿を伝えてくれるのだ。

しかし、ガンマ線バーストは、いつ、どの方向でおきるのか、まったく予測できない。そこで人工衛星がガンマ線バーストを捉えた瞬間、インターネットで制御する宇宙科学研究所(ISA)の望遠鏡と、理学部屋上にある望遠鏡が自動的にその方向に向くようセットしてある。

時間にしてたったの20秒、夜空から届く星の終焉のエネルギー。「やっぱり、誰も見たことのない宇宙を見られるというのは魅力ですね」。137億年の歴史を持つ宇宙。村上先生は、その「歴史年表」の完成を目指して、今日も星空の彼方に望遠鏡を向ける。

ハッブル宇宙望遠鏡が撮影した「宇宙で一番遠いところ」の写真
撮影:NASA



理学部の屋上にある望遠鏡

インターネットで制御するISAの望遠鏡
大きさは国内で5番目!

宇宙への夢と憧れ

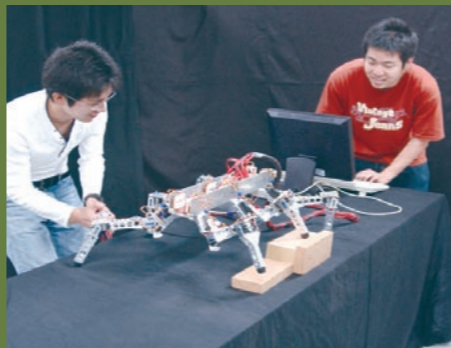
学生とともに未来の宇宙システムを研究

宇宙で働くロボットたち

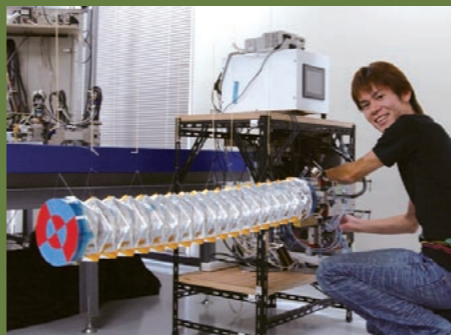
ロケットから取り出された筒状のコンパクトな物体。それは次々と膨らんで円柱状の建材になる。無重力空間を飛び回り、それら建材を組み立てる宇宙ステーションを建築するのは完全自律型のロボットたち。そんな未来を目指す泉田先生。研究室では、すでに無重力環境で安定して膨らむ建材と、自分の目で障害物を見て、それを避けながら組立作業を行う自律的な宇宙ロボットを完成させている。

学生とともに研鑽

宇宙にモノを打ち上げる費用は莫大だ。そのため運搬時には小さく収納され、宇宙空間で展開する超軽量の構造が不可欠という。先生は真っ直ぐに膨らんで円柱状の建材になる膜面の、特殊な折り方を開発した。また、危険を伴う宇宙空間での作業をロボットに担わせるため、環境認識能力と学習能力



学生たちと昆虫型の宇宙探査ローバ



真っ直ぐに膨らんで円柱状の建材になる膜面構造



自然科学研究科
泉田 啓助教授
Associate Professor SENDA Kei

を与えた。しかし、今の方法では複雑な作業には膨大な計算時間を要してしまいうため、コンピュータよりもはるかにシンプルな頭脳で、ロボットよりも高度な動きを見せる昆虫の研究を始めている。研究室の学生が見せてくれた6本足の昆虫型宇宙探査ローバ。「歩いたり障害物乗り越えたりすることができませんが、次はカメラを付けて周囲の状況を認識できるようにします。彼らの夢がまた一歩前進する日は近い。



自律的に組み立て作業を行う宇宙ロボット

研究に恋して

村上教授の素顔

東京大学助手、宇宙科学研究所助教授などを経て金沢大学へ。宇宙物理学や天文学が専門。日夜ガンマ線バーストを追いかけ、まだ誰も見たことのない宇宙の過去を探っている。研究室にはさまざまなジャンルの音楽CDが並ぶ。



<< 絵画
先生が描いた数々の作品。自然の絵が多く、緑の色彩が美しい。

>> 研究室ホームページ
<http://astro.s.kanazawa-u.ac.jp/>

研究に恋して

泉田助教授の素顔

大阪府立大学助教授を経て金沢大学へ。航空宇宙工学が専門。宇宙に巨大建造物を浮かべるための建材やロボット、その制御メカニズムを研究している。学生とともに研究を進め、宇宙への「夢」に向かっていく。サッカーとスキーが得意。

学生コメント「先生ってこんな人」

学生からの質問に快く応じてくれる教育熱心な先生です。その熱心さから厳しい指導になることもありますが、その人のもつ知識やスキルを伸ばしてくれます。また、知識の幅が非常に多岐で、研究活動では頼りになる存在です。
(自然科学研究科博士課程・藤井さん)

「THE研究者&教育者！」研究に対する情熱は人一倍熱く、費やす時間・パワーは並み大抵のものではありません。忙しくても昼夜関係なく、僕たちとのゼミに時間を割いてくれます。そんな先生に感謝日々啓発されています。
(自然科学研究科修士課程・小田さん)

>> 研究室ホームページ
<http://www.ms.t.kanazawa-u.ac.jp/~space/>

研究に恋して

柏谷教授の素顔

京都大学博士課程、神戸大学助手などを経て金沢大学へ。陸水物理学と水文地理学が専門で、湖沼・流域系の環境プロセスと変動を研究テーマとし、チベット高原やバイカル湖などユーラシア大陸東部を調査する。自然環境の厳しい地域での調査が多いが、湖の美しさに魅せられている。



バイカル湖で獲れる魚オムリ >>
塩漬けや燻製として食べたり、ルイベ(冷凍)として食べる。「ルイベは鰓がある味。しかし、獲れるとやめられなくなる」とか。

<< イルクーツクの「金沢通り」
シベリアの真珠と呼ばれるイルクーツク市は金沢市と姉妹都市。バイカル湖地域「観光」の拠点であるが、ロシア科学アカデミーに属する多数の研究所もあり、バイカル湖「研究」の拠点でもある。夏場は新湖から飛行機の直通便がある。

>> 研究室ホームページ <http://earth.s.kanazawa-u.ac.jp/Hydrology/>

サークル紹介

【チアリーダー部の活躍はここで!】

- 金沢大学アメリカン・フットボール部応援
開催日: 12月3日(日)・16日(土)
会場: エキスポ・フラッシュ・フィールド
(大阪府吹田市)
- 全国大学選手権(インカレ)出場
開催日: 12月9日(土)・10日(日)
会場: 国立代々木競技場

<http://www.geocities.co.jp/Athlete-Olympia/4482/>



元気いっぱい笑顔とスピード感あふれるダンス。そんな華やかなイメージがあるチアリーダー。しかし、その演技は一朝一夕にできたものではない。「見た目よりもずっとハード」入部前は筋トレをするなんて考えてなかった。部員たちは口々にそう言う。部長・古木光華(ふるきひかり)さん(文学部3年)によると、「練習は基本的には週3回です。1回の応援のために3〜4時間の練習を10回以上します。エアロビクスでアッパをして、柔軟ジャンプキックの基礎練習、それから演技の練習をします。時には動けなくなるほど筋トレをすることもあります」。

競技チアの大会で上位入賞するチームは、スポーツ部の応援やイベント出演をせずに練習を重ねるところも多いが、金大チアリーダー部は毎月のようにそれらに参加するため、大会の練習に割ける時間は少ない。インカレで予選を突破するための練習に専念したいという思いもあるけれど、応援もイベントも楽しめたいからやめられない。大会に特化した競技チアか、応援するチアか。葛藤する毎日だが、古木さんの表情は明るい。「金大チアリーダーの売りは笑顔。チアリーダーを始めてから、常に笑顔でいるようになったんです」。

彼女たちは今日も、大会のため、そしてみんなの応援のため、練習に励む。



スローガンは「笑顔・元氣・勇気」
チアスマイルで、みんなを盛り上げていきたい



学生インタビュー

金沢大学 医学部 医学科5年

田中 仁啓

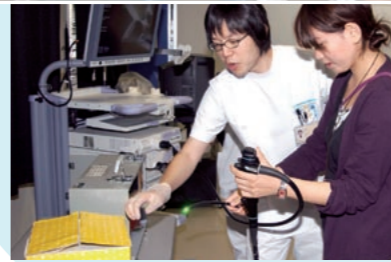
TANAKA Yoshio

1991年に途絶えてしまった医学部の文化祭「医学展」。田中さんは実行委員長としてメンバーを率い、今年、医学展を15年ぶりにみごと復活させた!

自分のキャンパスライフは、自分で創ろう

田中さんが医学展を復活させようと思ったきっかけは、昨年開催された全国の医学生が集うイベント。「他大学のモチベーションの高い学生に出会い、刺激を受けました。金大の医学生たちも、彼らのように、自分のキャンパスライフは自分で創っていくんだという姿勢が必要だと痛感しました」。

医学展は、かつては4年ごとに行われる恒例行事だったが、カリキュラムの変化で学生が多忙になるなどの理由により、これまでリーダーシップをとる人材が現れなかったという。学生たちも、自分の学生生活に対してさまざまな要望を抱いているのだが、誰も動くことがなかった。「金大の医学部には、学生が中心となって大学を変えていこうという動きがありませんでした。だから自分が率先して、まずは医学部の大学祭を創ろうと思ったんです」。



プロフィール

1982年6月生まれ。兵庫県神戸市出身。高校時代は文化祭の副委員長や体育祭の総務主任を務め、その経験が医学展復活に生かされた。忙しい時ほど勉強はかどりと、暇な時は怠けてしまうタイプと自己を分析。医学展期間中は多忙ながらも充実した毎日だったと語る。座右の銘は「時間は作るもの」。夢は日本だけに留まらないスケールの大きな医者になること。

11/4~5 2006年「金沢大学医学展」

50余名のスタッフとともに

最初の課題は協力者を集めることだった。友人たちは快諾してくれた。しかしそこから広げるのが難しかった。授業前の時間を使い、教室に集まった学生に協力を呼びかけたが、反応は良くない。田中さんは作戦を変えた。大勢に訴えるのではなく、キャンパスを回って一人ひとりの学生に声をかけたのだ。結果、3週間で50余名の協力者が集まった。「友人は快諾してくれました。だから他にもきつと、同じ

医療に大切なことを学ぶ

「今回のイベントで人をまとめることの難しさを学びました。協力者を集めること、実行委員長としてスタッフをまとめること。そして、お客さんに来ていただくこと。「医者という仕事も、決して一人ではできない仕事です。最善の医療を行うにはスタッフと連携すること、そして何より、患者さんから信頼を得ること。医学展での貴重な経験が、将来の医療現場で生かされることだろう」。



がんばっている人を強力にサポートします。 応援するサークル特集

http://www.ad.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakusei/student/club/

現在、金沢大学には、文科系サークルが41、体育系サークルが43あり、2,500名以上の学生が所属しています。

アスレチックトレーナー部

アスリートの活躍を支える「縁の下の力持ち」

スポーツ選手にテーピングなどのケアを施し、栄養面やトレーニング内容についてアドバイスを行い、時にはメンタル面のサポートを行うトレーナー。教育学部スポーツ科学課程でトレーナーの勉強をするために、金沢大学を選んだ部長・南條芳幸さん(教育学部3年)は、「トレーナーは選手がより力を発揮するためのサポートをします。選手を外から見ると、ケガをする直前に防ぐことができるなどメリットが大きいです」と語る。メンバーは現在26名。週に2回、勉強会を開いて知識や技術を高めている。それと並行して、他の部に所属してトレーナー活動を行うメンバーもいる。

毎年10月には1か月間、体育館内にトレーナーブースを開設し、運動部の学生たちに対して、マッサージ、テーピング、ストレッチなどのケア活動を行っている。今年は100人以上の学生が利用したという。「ウォーミングアップやクールダウンを疎かにする、漫然とストレッチをしているなど健康管理に対する意識はまだまだ低い。ブースを開設することで、トレーナーの存在を広め、積極的に意識の改善をしていきたいです」。

【アスレチックトレーナー部の活躍はここで!】

- 学内向けトレーナーブース(来年度も開催予定)
スポーツ部所属の学生を対象に開設
会場: 角間キャンパス体育館
- 石川県市町対抗ふるさと駅伝大会サポート活動
開催日: 12月3日(日)
会場: 加賀温泉郷

<http://www.geocities.co.jp/Athlete-Samosi/7297/>



2006年は、同窓会 躍進の年

「金沢大学同窓会 連絡協議会」が発足



総会で選任された役員のみなさん

卒業生への情報提供と、学部や学科単位の同窓会の連携を図るため、ゆるやかな全学連合組織「金沢大学同窓会連絡協議会」がこの夏、発足しました。本学の先輩である、四高同窓会も構成員に迎えてのスタートです。

これは金沢大学が「同窓生の連携強化」を目標として、ネットワークの整備、卒業生サイトの開設、広報誌「アカンサス」の送付、同窓会代表者の懇談会開催などに取り組んできた成果です。

連絡協議会は、同窓会への加入促進や各同窓会報発行の支援、行事の協力などの活動を進めていきます。

卒業生の皆さん、同窓会に参加しませんか？

- 法・経・文同窓会
事務局: 金沢市角間町 金沢大学 文学部・法学部・経済学部 気付
TEL(076)264-1667
- 教育学部同窓会
事務局: 金沢市平和町 1-1-15 金沢大学教育学部附属小学校 気付
TEL(076)226-2111
- 理学部同窓会連絡会
事務局: 金沢市西町三番丁 16番地 金沢子ども科学財団 気付
TEL(076)221-2061
- 医学部十全同窓会
事務局: 金沢市宝町 13-1 金沢大学医学部内
TEL(076)265-2131
- 医学部保健学科つるま同窓会
事務局: 金沢市小立野 5-11-80 金沢大学医学部保健学科 気付
TEL(076)265-2504
- 薬学部薬学同窓会
事務局: 金沢市角間町 金沢大学薬学部 気付
TEL(076)234-4411
- 工学部金沢工業会
事務局: 金沢市角間町 金沢大学 自然科学研究科(工学部) 気付
TEL(076)264-0482
- 四高同窓会
事務局: 金沢市広坂 2-2-5 石川近代文学館内
TEL(076)262-5464
- 同窓会連絡協議会
事務局: 金沢市角間町 金沢大学総務部 気付
TEL(076)264-6196

学都金沢 歴史探訪

第四高等中学校

其の七

官立高等教育の幕開け

明治19年(1886)4月に文部省は「中学校令」を公布して、全国を5地区に分けて各々に高等中学校1校の設置を決めた。当時の北陸4県で激しい誘致運動が行われた結果、地元の高い教育熱意と石川県専門学校の歴史の系譜の重要性を文部省が認め、同年11月に正式な設置区域と位置として、「第一区ハ東京第三区ハ京都第四区ハ金沢トシ 第二区第五区ハ追テ之ヲ定ム」とした。さらに翌20年4月には、「金沢ニ設置スルモノヲ 第四高等中学校ト称ス」と告示した。開校のために必要な資本金は、旧藩主家の前田利嗣氏から7万8千23円余(現行換算推定額は約8千7百万円)が寄付され、他は地元有志者の寄付金で賄われた。これは他の学区では見られないことであった。

明治20年10月には、本校の開校記念式が仙石町(現在の金沢市広坂周辺)の専門学校校舎で挙行された。01は同年5月出版の「金沢細見図」であり、中央公園の一面に「第四高等中学校」と記入されている。最初の人事は、初代校長が柏田盛文(元鹿兒島県議会議長)、脱岡彦助(舎監)、元鹿兒島警察、飯盛挺造(教授)、物理学、東京大学卒、佐賀県出身、川上親晴(幹事)、鹿兒島県出身、徳永富教諭(鹿兒島県出身)らが中枢部を占め、明治政府の影響を色濃く反映していた。他の教官は、石川県専門学校から本間六郎(外国語、地理、歴史)、今井省三(外国語、化学)、北条時敬(外国語、数学)等が着任した。

校舎は明治22年(1889)6月から新築工事が始まり、明治26年10月に落成した。現存の国指定重要文化財である赤煉瓦建て「旧第四高等中学校本館」(現石川近代文学館)は文部省技官であった山口半六と久留正道により設計され、明治24年8月に竣工した。02は本館の完成直後のものであるが、本館の最も古い姿である(04は現在の姿)。

明治20年10月に、石川県専門学校在校生は本校の入学試験を受け、学力により本科理科第一年に木村栄(03)、井上友一をはじめ6名、予科第一



01

板垣英治

金沢大学名誉教授
ITAKAKI Eiji
プロフィール
1934年兵庫県生まれ。現在は金沢大学名誉教授、同大TLO代表取締役、同大資料館客員研究員。研究・著作は「加賀藩の火薬、塩硝の調査・研究」「金沢医学館でのスロイス、ホルトルマンの医学教育の調査・研究」「硝石の舎密学と技術史」など多数。

明治27年(1894)6月に高等中学校令が公布され、本校は「第四高等中学校」に改称されたが、学校自体には大きな変化はなかった。本校設立当時の姿は「旧石川県専門学校敷地並資産引継書類及び目録、第四高等中学校」(明治21年)に詳細に記載されている。



04



03



02

- 01 「金沢細見図」(明治20年5月出版/金沢市立玉川図書館近世史料館蔵)
- 02 明治25年の第四高等中学校校舎(四高記念室提供)
- 03 木村 栄肖像画(金沢大学理学部蔵)
- 04 当時の面影を残す旧校舎。現在の石川近代文学館

声高らかに歌い上げる 熱き青春の応援歌 四高開学120年記念イベント



この秋、第四高等学校開学120年を記念するイベントが相次いで開催されました。10月16日からの「四高開学120周年記念展示」に始まり、20日、21日、22日の3日間は、金沢のまちがかったの四高生たちであふれかえりました。

四高開学120年 記念コンサート — 10月21日

四高のシンボル、北斗星が120個散りばめられたパンダ。腕に、頭に、思い思いにそれを巻きつけた学生たち。コンサートの企画と編曲に尽力された故・棚倉昭美氏の思いも胸に、開演の幕が上がりました。

金沢大学フィルハーモニー管弦楽団と金沢大学合唱団、総勢100名の学生が、「北の都」などの四高寮歌と金沢大学校歌、計12曲の練習の成果を披露。客席とともに口ずさむのは、かつての四高生たち。コンサートも終盤にさしかかると「北辰」「超然」の文字が躍る法被姿のバンカラが、応援旗を持った同窓生たちが舞台上に駆け上がる、感極まった会場は総立ちとなって寮歌を高唱しました。

20日に開かれた「学都シンポジウム」には、林勇二郎学長がパネリストとして出席。「学都の心を再び」のテーマで、四高卒業生である作家・高橋治氏、前滋賀大学長・宮本憲一氏たちと、かつて四高があった頃の街の活気や市民との交流、これからの学都金沢の在り方などについて語り合いました。

22日。同窓生約700名が出席した「四高開学120周年祭全国大会」では、5年ぶりに再会した同窓生たちが、卒業年度や寮ごとに次々と舞台上上がって、応援旗を振りかざして寮歌を熱唱しました。

しかし、メンバーの高齢化などの事情から、四高同窓会としてはこれを最後に全国的な行事は終了。林学長は、四高同窓会から「四高北辰太鼓引継目録」の贈呈を受け、四高の輝かしい歴史と伝統を金沢大学が継承していくことを宣言しました。



受け継がれた四高北辰太鼓

NEWS & TOPICS 金大のいまがわかる

[ニュース&トピックス]

金沢大学のニュース&トピックスおよびイベント情報は、[金沢大学「アカンサス」ホームページ](http://www.kanazawa-u.ac.jp/ac/)でご覧いただけます。
<http://www.kanazawa-u.ac.jp/ac/>



August 8月

8/3 「医療人養成GP」に採択
平成18年度「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」(医療人養成GP)に、医学系研究科の「周生期医療専門医養成支援プログラム」が採択されました。

8/8~9 オープンキャンパスを開催
「見つけよう、君の将来。感じよう、君の未来」

金沢大学を目指す高校生たちを対象にオープンキャンパスが開催されました。模擬授業、入試概要の説明、個別相談などが行われ、2日間で延べ7500人が来場しました。



8/14~16 夏季一斉休業を実施
学内における省エネの推進および教職員の心身のフレッシュを目的として、全学一斉の夏季休業を初めて実施しました。

September 9月

8/21 先端外科手術を小学生が体験
医学部附属病院で、親子体験学習会が行われ、県内の親子23組が参加しました。心臓手術のライブ中継や、豚の胆のう摘出術体験、手術ロボット「ダ・ビンチ」の見学などを行い、未来の外科医誕生を期待させる盛り上がりを見せました。



8/23 ものづくり教室を開催
子どもたちが技術支援センターで「からくりコスター」の部品作りと組み立てに挑戦しました。

8/24~25 金沢学子ども体験塾を開催
子どもたちを対象に、金沢の伝統芸能や工芸を体験するプログラム「金沢学子ども体験塾」が開催されました。

8/28 コンビニエンスストア 金沢大学店が開店
金沢大学店が開店



8/28 「金沢大学同窓会連絡協議会」が発定
P12に関連記事

9/2 法務研究科が模擬裁判を実施
学生の教育と市民の裁判員制度への理解を目的に、市民公開の模擬裁判を実施しました。

9/14~10/6 アフリカ5カ国の教育関係者が来学
ガーナ、エチオピア、ウガンダ、マラウイ、ザンビアの教育関係者が学校運営について学ぶ研修が行われました。



9/20 「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」に採択
文部科学省が進める「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」に医学系研究科の「ハノイにおける薬剤耐性H1Vの現状および推移」が採択されました。

9/21 新司法試験に合格
法科大学院の修了者を対象とする初の「新司法試験」に1名が、11/9の「旧司法試験」には2名が合格しました。

9/21~23,25 21世紀COEプログラムのシンポジウムを開催
「環日本海」と「革新脳科学」のCOEでそれぞれシンポジウムが開催されました。

9/28 9月期学位記・修了証書授与式
学部生32名、大学院研究科修了生と博士論文審査合格者59名、合計91名に学位記・修了証書が授与されました。



October 10月

10/9 「里山里海自然学校」が開校
三井物産環境基金の支援を受け、珠洲市に「能登半島・里山里海自然学校」を設立しました。地域と連携して、環境配慮型の地域振興策を研究していきます。

10/13 デュッセルドルフ大学副学長が来学
本学の卒業生であり、ドイツ・デュッセルドルフ大学副学長の前みち子教授が、林学長を訪問されました。

10/16~29 四高開学120周年記念イベントを開催
資料館で「四高開学120周年記念展示」が開催されました。21・22日には、JR金沢駅から本学へ無料シャトルバスが運行されました。

10/28 「大学コンソーシアム石川」設立記念式典を開催
石川県内19の高等教育機関で構成される「大学コンソーシアム石川」の記念式典が開催され、会長を務める林学長が挨拶しました。

10/28 アメリカンフットボール部13連覇
北陸学生アメリカンフットボール秋季リーグで13連覇を果たしました。

10/28 吹奏楽団が全国大会銅賞
全日本吹奏楽コンクールで吹奏楽団が銅賞を受賞しました。

10/28 吹奏楽団が全国大会銅賞
全日本吹奏楽コンクールで吹奏楽団が銅賞を受賞しました。

November 11月

11/1 国家公務員II種採用試験(行政)が国立大学でトップ
平成18年度国家公務員I種採用試験合格者は8名で全国27位、II種は93名が合格。行政のみの合格者数72名は国立大学で1位でした。

11/8 森厚文教授が「原子力・放射線安全管理功労者表彰」を受賞
学際科学実験センターアイソトープ総合研究所施設長・森厚文教授が、平成18年度の「原子力・放射線安全管理功労者表彰」と「文部科学大臣賞」を受賞しました。

文化の日から始まる3連休。秋晴れの下、多くの方が金沢大学を訪れました！

11/3 ふれてサイエンス&てくてくテクノロジー、ひらめき☆ときめきサイエンス
理学部と工学部の秋のオープンキャンパス。子どもからお年寄りまで2000人が、サイエンスショーの見学や実験の体験などをしました。



11/3~5 第43回金大祭
「既成性の地平をこえて」 拓け！黎明の大地を」
をスローガンに、多くの模擬店やサークルの発表がありました。



11/4~5 金沢大学医学展
15年ぶりに復活し、5500人が参加しました。

11/5 第1回アカンサス駅伝大会
金沢大学の総合移転の終了にあわせ、角間キャンパスでの新しい伝統行事として、今年初めて開催されました。

